

1 学校教育目標

『 かしこく やさしく しなやかな 江北の子 』（知徳体の涵養）

人権尊重の精神を基調として、様々な価値・状況の中において「共に生きる」ことを念頭に置き、一人一人の児童に意欲と自信をもたせる教育を推進する。更に社会貢献できる心身ともに健康で知・徳・体のバランスの取れた教育を提供していくことで自ら考え正しく判断し、社会の変化に主体的かつ柔軟に対応して生きる児童の育成を目指す。

その実現のために、以下のように教育目標を設定する。

- かしこく （創造的に生きる**学力**） … 自ら考え、正しく判断し、新しさを自由に求める創造性豊かな子
- やさしく （心豊かに生きる**活力**） … 友達のよさを認め温かい心で接し、互いに励まし合う子
- しなやか （柔軟に強く生きる**体力**） … 心身ともに健康で正義感と責任をもち自分の力で柔軟に対応できる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○児童に基礎学力および基礎体力をつけて、その有用性を理解させていける学校 ○児童一人一人が自分自身の思いや願いをしっかりと伝える力をつける学校 ○児童一人一人が活躍する場を創り、粘り強くやり通す力を育成する学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○課題をしっかりと受け止め、解決に向かい自ら考え、学び合える児童 ○相手意識及び規範意識や社会性を身につけた、思いやりのある児童 ○何事も最後まで頑張る気持ちと体力を身につけやり通す、たくましい児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○指導力の向上をめざし力量を高めるために、主体的・意欲的に研修に励む教師 ○しっかりとした人権感覚をもち、保護者・地域と協力しながら共有ができる教師 ○児童の実態を分析し児童理解の上に立って、計画的・意図的な実践ができる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【成果】

- 「生活規律・授業規律」において、江北スタンダードがほぼ確立できた。
- ・小中連携授業・校内研究・若手研究を通して、教員の授業力が確実にアップした。
 - ・授業研以外に自主的に自分の授業を公表し、沢山の先生方に見てもらい指導をってもらうなど、積極的に授業力向上に取り組んでいる。
- 基礎学力向上を目的の取組（漢字・算数コンテスト、読書活動）に積極的に取り組める児童が、かなり増えた。

【課題】

- 理由がはっきりしない事故欠席の家庭が多く遅刻児童も非常に多い。家庭の規範意識が薄いと感じる。定期的に家庭には声掛けをしていく。
- 不登校児童、不登校気味の児童が多い。また、別室登校の児童も増えてきた。
- 学校の規則を守れない保護者が多くいる。定期的に家庭には声掛けをしていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン（学力）	○	○	○	○	○
2	基礎体力の向上（体力）	○	○	○		
3	豊かな心の育成（活力）	○	○	○		
4						

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
自主学力の定着を図り、自主的に学ぶ児童育成	国語85% 算数80% 全体80%		自己評価の際に記入	

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
								自己評価の際に記入	

1 継続・改善	○読書活動の充実 音読・朝読書・読み聞かせ	全学年 国語	年間 火水木金 始業前 10分間	<p>○読書旬間（6月、10月、2月）</p> <p>○夏休み読書、冬休み読書（貸出5冊まで）</p> <p>○読書カードに記録し、おすすめの本を紹介する。</p> <p>【音読・朝読書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任が国語力・語彙力の向上を目的に、音読カード（音読）や学校図書館の書籍、各自で用意した本（読みもの）を使用して実施する。 <p>【読み聞かせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校作り協議会の委員、図書ボランティアの方、保護者、卒業生、教職員による読み聞かせを定期的に実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだページ数、冊数、印象に残った文を読書カードに記録する。 ・暗唱テストを全校朝会にて学年単位で発表する。前期1回後期1回計2回実施する。 	<p>○年間10,000ページを目指す。達成者には校長賞を授与する。</p> <p>○本の紹介カードの作成。カードは図書館に掲示する。</p>			
2 継続・改善	○基礎基本の学力の定着	全学年 国語 算数	年間 7回	<p>①漢字コンテスト（25問テスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長作成の漢字テストで、各回担任に漢字ドリル等の範囲を決めて児童に練習させる。 <p>②算数コンテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数少人数教員が計算ドリル等を参考に作成する。 	<p>○漢字・算数コンテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低でも早めに範囲を公表し練習期間を設ける。 	<p>○100点を取った児童には満点賞の賞状を授与する。全校朝会にてクラス代表の児童に賞状を授与する。</p>			

3 継続・改善	○自主学習の励行 セルフ・スタディン グ	全学年	学年の 実態に 合わせて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が問題解決学習の一環として、児童自ら課題を見つけ、その課題解決に向けて、自主的に調べたり聞いたりして解決の方向に向かえるよう指導する。 ・宿題以外の取組なので、児童によっては負担感を感じることもある。無理のないよう学年で工夫して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年で同じノート（30ページ位）を使用し、何冊取り組めたかで確認する。 ・基本は毎日1ページの取組にするが、無理はしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間10冊を目標に取り組む。 ・目標達成児童には、全校朝会にて校長賞を授与する。 			
------------	----------------------------	-----	--------------------------	---	---	--	--	--	--

4 継続・改善	○教師の授業力向上	全教員対象だが、特に6年目までの若手教員	①若手教員研修 ・月1回。 ②小中連携授業 ・授業研究は年3回 ③校内研究 ・国語か算数の研究 ・9回実施し協議会を設ける。 ④ICT機器の活用	①若手教員研修 ・月1回を基本とするが、場合によっては随時招集する。 ②小中（3校）連携授業 ・6分科会にて指導案検討等に積極的に関わる。 ③校内研究 ・国語科の研究 ・各学年、専科、支援教室、支援学級の9回実施し協議会を設ける。 ・年間通して同じ講師の先生に指導いただくように設定する。 ・基本教員全員が公開授業の実施。 ④ICT機器の活用 ・積極的に授業に取り入れる。	・市販の確認テストを1月に実施。 ・区学力定着テスト（再テスト）を2月に実施。	・学級間の通過率の差10ポイント未満。			
5 継続	○MIMの充実活用	1年国語	毎月	・職員会議等で取り組み状況を周知し、現況を共有する。他学年へも特に学習の遅れがちな児童を中心に実施する。	・3月アセスメント	・3月には3rd対象児童を0にする。			

6 継続	○ICTの積極的な活用	全学年	・通常授業や校内研究で授業の積極的な活用	・指導者は担任、専科教員、管理職とする。 ・目的は、授業の中でタブレット等ICT機器を使用した授業を週案簿に明記するなど積極的に計画、推進する。	・週案簿の確認 ・研究授業で指導案作成時に確認	・週案簿の確認 ・研究授業で指導案作成時に確認			
7 継続・改善	○放課後補充教室(江北塾)	全学年 国語 算数	時間の ある 放 課 後。	【指導者体制】 ・担任、専科、学習支援員、管理職 【取り組みのねらい】 ・つまずきに合わせ個別、または少人数で指導。 ・特に読解に力を入れる。 【使用教材】 ・ワークベーシックドリル AIドリル等	・6月に4月実施の区調査再テストの実施 ・1月に現学年学習内容の業者テストの実施 ・2月に4月実施の区調査の1つ学年上のテストの実施	○6月のテストでは、通過率を9割以上にする。 ○2月のテストでは、通過率80%以上を目指す。			

重点的な取組事項－2		基礎体力の向上			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
	体力調査の評価を一つあげる	○全項目の60%以上が区の平均を上回る数値を出す。 ○体力・運動能力調査で各学年B評価以上を4割、D評価児童をゼロに近づける。	自己評価の際に記入		
B	目標実現に向けた取組み				
	項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題

<p>○自分の基礎体力・運動能力を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投げる力の向上 ・持久力の向上 ・瞬発力の向上 ・跳躍力の向上 	<p>○体力調査の結果を平均値5%上げる 全校児童の4割がB評価以上にし、D評価児童をゼロにする。</p> <p>○長短縄跳び・持久走に取り組む児童80%</p> <p>①「反復横跳び」と ②「立ち幅跳び」で80%以上が区平均以上</p>	<p>○全国体力・運動能力調査を年間2回、6月と2月に実施し、成果を検証する。</p> <p>○投力向上の場を日常的に設定する。</p> <p>○長短縄跳び週間の期間延長 ○持久走に取り組む期間の延長 ○授業での取扱</p>			
<p>○基礎体力・運動能力の向上を図る</p>	<p>○一日60分の運動量を目指す</p> <p>○一週間で420分の運動量を目指す</p>	<p>○取組カード「こうほくエクササイズ」の作成実行</p> <p>○3分間走の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中休み時間の後半3分間を走る。 ・時期のよって種目を変える。 12月から2月の期間は、3分間縄跳びに変更する。 <p>○長縄チャレンジへの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月と2月の2回全校で実施する。(体育集会) 			
<p>○毎日の生活の中で、健康・安全に過ごす力を養う。</p>	<p>○「早寝・早起き・朝ご飯」を推進し、生活習慣の確立を図る。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックに関する学習を推進する。</p>	<p>○各家庭との連携を図る。</p> <p>○アスリートやスポーツ専門委員の学校派遣を推進し、運動能力の向上を図る。</p>			

重点的な取組事項－3	豊かな心の育成
-------------------	---------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携の一環として、9年間を通して生活習慣の定着を図る ○地域と共にあいさつ運動の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活指導を見直し、江北地区のスタンダードを作成する。 ○全員が「場に応じたあいさつ」ができる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		

B 目標実現に向けた取組み				
----------------------	--	--	--	--

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○場に応じた気持ちの良いあいさつの実施	○誰にでも何処でも気持ちの良いあいさつを100%できる。	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつ運動の全員実施。 ○江北地区全体（学区域）での取組とする。学区域の幼保小中高で連携し、日常的なあいさつ指導を推進する。定期的にあいさつ週間を設け、その期間は連携校で一斉に実施する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		
○「時間・礼儀・責任」を重んじ、当たり前前かが当り前にできる児童の育成	○学校の生活規律を守り、けじめのある行動ができる児童を育成する。6月までに8割達成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○生活規律の徹底を図り、毎月定期的に生活指導部を中心に点検する。 ○江北地区生活指導における「江北スタンダード」を作成する。 			
○問題解決学習を励行し、自主的に発表、表現活動の充実	○発表、表現活動の充実8割の達成を前期までに目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○体験学習、校外学習のまとめとして発表・表現を伴う授業を充実させる。 ○学校図書館を利用した調べ学習を充実させる。 ○全校での取組とする。 			

--	--	--	--	--	--

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。